平成２６年度　第４回新宿区産業振興会議　議事要旨

【日　時】　平成２７年３月９日（月）　午後３時 ～ ５時

【場　所】　ＢＩＺ新宿（区立産業会館）　多目的ホール

【出席者】　委　員：植田、河藤、川名、松尾、下吹越、前田、志村、加藤、富田、酒井、坂倉各委員

事務局：加賀美地域文化部長、中川産業振興課長、黒澤産業振興係長、久野主任主事、

後藤産業創造プランナー

【欠席者】　益田、北村委員

【傍聴者】　１名

【配布資料】　省略

【内　容】

１　開会

２　議事

（1）専門部会「新宿らしい産業振興・新しい産業づくり」報告

（2）第２期報告書　項目案検討

３　主な発言内容

○専門部会「新宿らしい産業振興・新しい産業づくり」について

・働き方が多様化してきて、様々な働き方をしている社員を支援する企業は、チャレンジ精神があると言ってもいいと思う。そういう企業を支援する施策というのも必要ではないか。

・若い経営者を自社のことや地域との交流など、多面的な見方のできる経営者にするため、どのように育成するのかがわかりにくい。実際そういう経験をされてきた人たちからの経験談や、地域のためになるアドバイスを直接聞く機会がないと、若い人たちが経営者になることや、地域のことを考えることは難しい。

・地域に根差した人材育成を考えたとき、新宿区の特徴である外国人住民の方や留学生、また多様な働き方、多様な国民性がある中で、どうワークライフバランスを実現していくのか。人材育成は、起業家だけではなく、そこに住んでいる外国人、子供たちも含めて様々な人たちをどう育成していくのかを考える必要があるので、多様性の枠を少し広げたほうがいいのではないか。

・若手人材の育成は単発的な講演会というよりは、１年コースなど長期での育成、カリキュラムに基づく教育も考えてもいいのではないか。

・行政が人材育成を行う場合、ビジネススキルを学ぶだけではなく、地域の発展を合わせて考えられるような人材、地域の核となる人材の育成が必要ではないか。

・一つの目標に向かって議論した後に交流の場、マッチングというよりは交流の場をつくっていけば、自発的に連携が生まれてくるのではないかと思う。連携を生み出すための多様な交流の場をどのようにつくっていくかが、人材育成につながっていくのではないか。

・企業同士の提携には法律的な問題が出てくるので、相談できる専門家の紹介が必要であるが、専門家の得意分野と合ったものにしていかなければならず、留意していく必要があると思う。

・いろいろなプラットフォームを活用するときに、実効性の確保はどうしていくのか政策の議論が必要。いろいろな主体、団体が関わると、なおさらプラットフォームの活用をどのように実効性のある政策に結び

付けていくのか、新宿区がどういう役割を担っていくのか考えなくてはいけないのではないか。

・多国籍性が特徴なので、外国人住民、外国人経営者などをどう新宿の発展につなげていくのか考えていかなければいけない。象徴的なことがおそらく必要だと思うので、観光振興協会が会員に外国人の会社の方や経営者、外国の観光会社を意識的に入れていくということもいいかと思う。

○第２期報告書について

・この産業振興会議で議論してきたこと、「こういうものをこういうふうにやっていきたい、だからこれが目標」というキャッチフレーズがあるといい。

・第１期の議論があって報告をして、それが行政の施策として反映され、第２期の諮問があった。それは同時並行だと思うので時系列で並ばなくてもいいが、第１期の議論の積み上げの結果、何かが起きて、その後、第２期があって、第２期を受けた施策というものが実行されて、さらに第３期。そういう風に積み上げていくものということが分かる形式も必要かと思う。

・１部２部構成にして、第１部では、第１期の議論の報告書の内容を要約した上で、それがどういった形で第２期の間に具体化されていったのかを描く。第２部では、第２期産業振興会議で議論されてきた内容を描く。１部２部の順番は逆でもいいと思うが、このような構成でもいいかと思う。

・今日議論した人材育成について、来年度すぐに新しいことをやるというのは、なかなか難しいと思うので、来期に向けての項に、人材育成についてもう少し具体的に検討しなくてはいけないと触れておいてもいい。他には、産業振興プランや実態調査などがあるので、そこではどういったことが課題になるのか、先に出しておくということは出来ると思う。

４　次回日程について（予定）

○産業振興会議

日　時：平成 27 年 5 月 19 日（火）18:00 から

会　場：ＢＩＺ新宿　研修室Ａ

５　閉会